

二尊寺跡

—北向—



▲小堂内に安置されている
阿弥陀如来像など
◀背後に土塁の跡がみえる
二尊寺跡

「二尊寺跡」は北向の東部、下陳地区との境にあります。

「二尊寺」は、文献が残されていないため不明な点が多いですが、『肥後國誌』に「寿永年号（1182～1184年）の位牌があった」とあり、この位牌の記銘年号から平安時代末期の12世紀中頃に開基された寺院と推定されています。

現在、寺院そのものではありませんが、竹林の中に小堂（昭和63年に下三竹地区民の浄財で建立）があります。小堂内には「阿弥陀如来像」2体、「地藏菩薩像」1体、「韋駄天像」1体などが安置されています。

昭和58年の熊本県立美術館の調査報告書によると、「阿弥陀如来像」は室町時代末期の作、「地藏菩薩像」は南北朝時代の作といわれています。また、周辺から出た石碑には永禄12（1569）年、文禄4（1595）年や金剛教の銘があることから、近世初頭（1595年）頃までは密教行事が行われていた寺院であろうと推定されます。

近くには「古津森宮」（現津森宮の古社）や「碑伝」（影向石）もあり、聖地の古津森宮や朝来山の一帯で修行をし、その法力を会得した僧や修験者が人びとに神仏の教えを説いた里寺的性格の寺院として、開基されたのではないかと考えられています。下三竹地区20戸の人が管理され、9月末に秋祭りを行っています。

参考文献『益城町史 通史編』
益城町文化財保護委員会

俳句

早川宏次 選

蟬の穴計り見るなり指尺で
鶴鶴の人懐かしく走り来る
立秋と言へど暑さの収まらず
熱帯夜三日月さまも雲の影
盆過ぎて蟬に変わりし秋アカネ
月さやかまた台風の来るらむ
立つ秋や阿蘇高原に人集ふ
うな重の香りは今年縁遠く

惣領 小森英美子
惣領 阪口 基明
広崎 松原まゆみ
惣領 新居 露子
惣領 阪口由美子
下陳 城 陶子
木山 山口サツキ
木山 増岡 伸禧

狂句

田上富岳 選

スツキリ 遺産で負債かたじいた
スツキリ 床屋で愚痴も捨てて来た
スツキリ 大食い止めにや無理ばいた
スツキリ 田畑うち売り養護園
スツキリ 大木切ってまゝ見る見え
耳をすまして やっぱあの娘が気になると
耳をすまして 音より先に咲く火花
耳をすまして 聴けば微かに虫の声
耳をすまして 隣は何か揉めよらす
耳をすまして みんなが寝たら盗み酒

木山 増岡 伸禧
惣領 小森英美子
宮園 井藤 吉郎
島田 堀川 骨鶏
惣領 新居 露子
宮園 岩本よろこ
惣領 阪口 基明
広崎 松原まゆみ
寺迫 左 喜樹
宮園 永瀬 美波

狂句次号の課題 「手際のよさ」「回りまわって」

投稿は役場広報係まで。

投稿締切日は毎月15日です（当日必着）。

※数種に投稿される場合は、別にお送りください。